



## くみあいニュース

2016年度第1号 2016年8月23日

島根大学職員組合広報部

内線 (9)2198, ダイヤルイン 0852-32-6407

E-mail [shimane-uu@soc.shimane-u.ac.jp](mailto:shimane-uu@soc.shimane-u.ac.jp)

<http://sula0043.soc.shimane-u.ac.jp/kumiai/kumiai.html>

2016年度の組合ニュース第1号をお届けいたします。第1号の記事は、①新委員長挨拶、②新三役の学長・理事への挨拶、③全大教定期大会報告、④イクボス宣言への対応、です。

### 中央執行委員長 挨拶～委員長就任に当たって～

本年度の委員長をつとめる教育学部の富澤芳亜です。中央執行委員をつとめるのは、2009年の書記次長以来7年ぶりになります。

この7年間で島根大学を取り巻く環境は、より厳しさを増しました。国立大学法人法の第三条には「国は、この法律の運用に当たっては、国立大学及び大学共同利用機関における教育研究の特性に常に配慮しなければならない」とあります。しかし政府が運営費交付金などの財政的手段により、大学運営に露骨な介入を繰り返すことにより、この条項はもはや空文と化しています。

そして大学は、こうした政府の意を酌んで、「無駄」をそぎ落とした経営により、「実用的」な人材養成を迫られています。そして大学の中では、教員、職員、学生のだれもがギスギスとした余裕のない時間を過ごしています。いわゆる多忙化です。

しかしながら、ひろく人生や学問を考えれば、「無駄」もあるべきです。「無駄」と思えたことが、ある時に役に立つことは、人生でも学問でもまああることです。再び国立大学法人法にある大学の「教育研究の特性」から考えれば、こうした「無駄」を保証するのが「自由」な教育研究ということになるのでしょう。

現状では組合活動ですら「無駄」と片付けられるかもしれません。しかし大学から「無駄」が無くなる時、学問の「自由」すら危なくなるのではないのでしょうか。

1年間、微力を尽くしますので、どうかよろしくお願いします。

富澤芳亜

### 新三役が、学長など大学執行部に挨拶をしてきました

7月15日(金)9時30分から、富澤委員長、大橋副委員長、中務書記長が、学長など大学執行部に新任の挨拶をしました。

大学側からは、服部学長、藤田理事、松浦理事、鈴木総務課長、また人事労務課から土屋課長、大島氏、松崎氏が出席されました。

席上では、労使として立場は違えども大学を「良く」しようとする目標は共有しており、そのために相互を尊重することを確認しました。

また組合からは、前任の執行部からの課題として①軍事研究と島根大学の関係、②職員のメンタルへ

ルスの問題、③センター職員の処遇の問題などを頭出ししました。

学長との挨拶後には、土屋課長をはじめとする人事労務課の方々と意見交換もいたしました。

これからも大学執行部との面談や交渉をつうじて、意見交換や情報の収集につとめていきます。

富澤芳亜

## 全大教第 49 回定期大会に参加しました

7月9日と10日に全大教の定期大会（会場：東京・大崎 南部労政会館）へ参加しました。給与臨時減額訴訟や労働委員会闘争の支援についての承認議案などがありましたが、一方どの単組も抱えている組合員拡大と維持についても有意義な議論ができました。組合員になるメリットとデメリットを共有とし、組合員相互の交流を深めることが、地道ですが確実な方法であることを再認識しました。また、非常勤講師・テニユアトラック・年俸制・特任助教あるいは卓抜研究員など雇用にかかわる事柄、あるいは産業医によるストレスチェックなどについての情報提供も行われました。

中務 明

## 学長「イクボス宣言」への対応について

組合は昨年生じた一般職員のメンタルヘルス問題に取り組んできましたが経過は捗々しくありません。委員長もご指摘の多忙化が背景にあるためで、大学側は有効な対策を打ち出せていないといえます。そんな中、学長はじめ全理事が「イクボス宣言」に署名しました。組合は、同宣言が一般職員の超過勤務縮減につながる内容を含んでいることから支持を表明しました。大学執行部には効率的な働き方の実現など宣言の誠実な実行を求めます。業務改善は現場で働く人の工夫によるところも大きいため、組合でアイデアを取りまとめて提言を行いたいと思います。ご協力を宜しくお願いいたします。

山根 冬彦

## 2016 年度中央執行委員会メンバー

中央執行委員長	富沢 芳亜（教育支部）
〃 副委員長	大橋 泰夫（法文支部）
書記長	中務 明（生物資源支部）
中央執行委員	
教文部	栢野 彰秀（教育）、大平 寛人（総理）
調査部	浜田 幸絵（法文）、大崎 浩紀（職員）
文化厚生部	橋本 哲（生資）
広報部	藤本 晴久（法文）、山根 冬彦（職員）